

皆さんは岩手の冬場の釣りと言ったら何を思い浮かべるでしょうか？一般的に浮かぶのはワカサギの氷上釣りだと思う。代表的なのは藪川にある岩洞湖での釣りかと思う。また釣り好きの方は12月中旬から年末にかけての抱卵ナメタ狙いのカレイ釣を上げる方もいるかと思う。さらには冬場のタラキクを狙った、深海釣りでのタラ狙いもあるかと思う。11月から1月中旬にかけての冬場の真ダラは、キク（白子）やタラコを持っていて大変なごちそうになる。しかしこの時期のタラは水深200m以上の深場にいる為、竿や電動リールなど大掛かりになる。しかし昨今冬場のフィッシングとして、スロージギングがブームになっているようだ。ジグと呼ばれる魚の形をした金属製の疑似餌に大きな針を付けて喰ってきた魚をひっかける釣りである。さらに1月下旬から3月にかけては、マダラが産卵を終えて、浅場に寄ってきて小魚などを捕食するので、比較的浅場でのタラ釣りが出来るのである。五目釣りと称して筆者も4年前ぐらいから2月中旬頃の釣りとして楽しんでいる。3年前の時はビギナーズラックで60cm～100cm オーバーサイズの真ダラを8本以上釣り上げた事があった。去年は天候の関係で1回しか行けなかったが、大型のソイを爆釣した記憶がある。この時期の真ダラはタマゴやキク（白子）は入っていないが、掛かった時のダイナミックな引きは、何とも言えなく面白いものである。また、ソイ、沖メバル、アイナメ、メヌケ等のゲストも豊富で、五目釣りしても楽しめるのである。今回は山田の龍昇丸で行ったスロージギングについてレポートしたいと思う。今回の釣行については1月末に電話して一人だけ参加したい旨事前に連絡していたもので、2月に入ってから、26日に盛岡から2名での予約が入ったため、参加できないかとの打診が舞い込んだ。もちろん即了承と回答して準備に入った。



【日の出とともに出船】

しかし24日に又電話があり、当日風が強いので二日後に延期との連絡が入り二月の最終日の28日の釣行となった。この時期は天気が安定しないので、釣りに出られる日を設定する

のが一苦勞である。冬場でもあり、区界峠の道路状況を考え、前日移動と慎重を期したが、国道106号線は乾いていて、全く問題が無かった。夜7時過ぎ、大槌の定宿に無事到着した。

半年ぶりの釣行なので興奮してなかなか寝付けなかった

が朝4時半に起床して洗顔等を済ませ、5時15分に宿を出発、5時半に織笠のコンビニでコーヒーと朝食のおにぎり等を購入して船着場へ、既に先着の2名は来ていて、前方の席を取っていた。天気予報では晴れで風も1m前後と絶

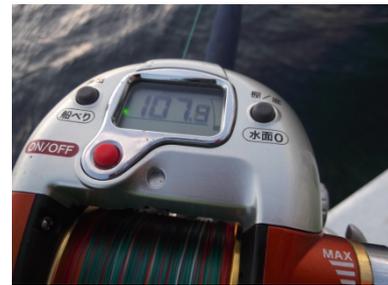


好の釣り日和のはずだったが、若干雲が多くて朝方パラ

【本日の仕掛けジグ】

パラと雨が降ったようだ。所定の位置（左舷後ろ）に着いて、6時にいざ出発、ワクワクした気持ちで一杯であった。約30分船を走らせて最初のポイントに到着。今年最初の釣行であったので、パックの日本酒で竿と仕掛け等の清めの儀式

をしてからの第一投であった。ジグは300gの少し重め、竿をメガラ用の長めの竿、リールは少し大きめの電動リールを使った。そして餌として業スーで調達した冷凍イワシをつけておいた。前方の盛岡の人達はやはりサンマの切り



身をつけてのトライであった。水深120mと船頭の声、

【電動リールでの水深】

早速仕掛けを投入するも当たりはナシ、ジグを上下に少しずつ巻き上げて、20m位上げたら再び落としてシャクリを繰り返す作業だ。すると前方右舷で当たりがあり、中サイズの真ダラを上げたようだ。しかしその後は音沙汰ナシ、船頭の合図で場所移動少し浅めのポイントに移動となった。100m前後のポイントである。またシャクリを繰り返す。前方で当たりが出始め、連続して中サイズの真ダラを上げ始めた。こっちには全く当たりもなく少し焦りが生じてきた。餌となる小魚が上からゆっくりと落ちていく事をイメージして、ジグを動かすことが重要である。このことは分かっているが、当たりが無いと少し心配に

なって来る。前方では小サイズから中サイズのラを順調に掛けている。そしてついに小生にも当たりが、ググッと来たので大きく合わせて針をしっかりとフックさせてから巻き上げにかかる、慌てず急がずにその引きを楽しみながら、ゆっくりと確実に巻き上げた。船頭にフックしてもらい船上に上がったのは 1m弱のま

るまると肥えた真ダラであった（多分今日のサイズだったと思う）何とか1匹ゲットして一安心。その後も場所を移動しながらシャクリを続けた。隣では船頭が竿を出して中サイズのタラを数本上げていたが、途中でメガラ（沖メバル）が上がってきたので、仕掛けをメガラ



【今日の真ダラ】

用の同付き7本針仕掛けに変更しての餌釣りを始めていた。3本、4本と結構上げていたよう

だ。その後小生には同じサイズのマダラと中サイズのマダラ3本、真ソイ1本、カジカ1本が上がってくれた。前の二人は中サイズ以下



【ビッグサイズの真ソイ】



【カジカ】

のタラを中心に20本以上釣り上

げていたようだ。前の人達との大きな違いはジグの重さで、180g位のジグを使って、ジグ

の動きをダイナミックにしていたので、中層のタラにアピールできたものと推定した。小生は海底近くの大物狙いで攻めたので、釣果に差がでたのかと思われる。何かで大物は海底近くに潜んでいて静かに餌が来るのを待っているという事を読んだ記憶があった



たので、それを実践しての結果だった。

【本日の釣果】

なにはともあれ、何とか本命の真ダラをゲットできたことは良かった。帰ってからが大変で、自宅のまな板ではさばききれないため、鱗を取ってから頭を落とし、胴体を半分にしてからの三枚おろしの作業になった。当日は刺し身と、タラフライとタラのスペアリブでの潮煮など美味しくいただいた。残りは味噌漬け、塩麹漬け、醤油麹漬けにして冷凍庫行きとなった。タラは足が速い（痛むのが早い）魚であるので、刺身は正に釣り人の特権であると思う。又この時期は、早採りワカメ、ワカメの茎、フノリ、マツモ等の地場でとれた海藻が出始める時期でもある。この時期には近くのスーパーでも売っているのでありがたい。筆者は特にマツモが好物で、薄口醤油で煮たマツモでの晩酌を楽しみにしている。このマツモは火を通すと鮮やかな緑色になり、シャキシャキとした歯ごたえと、ちょっとしたぬめりが後を引くのである。実家にいた頃この時期のお袋が良く作ってくれた、いわゆるおふくろの味である。たまに寿司屋でも、軍艦として提供されることがある。またこの時期の定番としての早採りワカメは、養殖棚で間引いたワカメを、早採りワカメとしてしゃぶしゃぶや、お浸しとして食すのが定番化してきたように思う。芯まで柔らかくてとても美味しく頂けるのが良い

のである。以上岩手の冬場の楽しみの一つとして紹介した。もちろんジギングではなく、餌釣



【マツモ】



【早採りワカメ】

り（サンマの切り身なども

使用）でも対応可能である。しかし、確かに寒い。当日の朝の気温も氷点下であり、手がかじかんでしまうほどの寒さであったが、そこは釣りバカで、日の出とともに、竿のシャクリに夢中になってしまい、寒さを忘れてしまう状態であった。釣り好きの皆さんも三陸の冬場のアウトドア活動の一つとして考えてみてはいかがでしょうか？

以上